

第3回蒲郡市東港地区まちづくり協議会 議事録

開催日時	令和7年11月18日（火）午後2時から午後4時まで
開催場所	蒲郡商工会議所コンベンションホールB
出席者	<p>【会 長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋工業大学大学院工学研究科教授 秀島 栄三</li> </ul> <p>【委 員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋大学大学院 工学研究科教授 恒川 和久</li> <li>・名城大学 理工学部建築学科教授 生田 京子</li> <li>・蒲郡商工会議所 会頭 小澤 素生</li> <li>・中部地方整備局 三河港湾事務所長 渡邊 弘</li> <li>・愛知県東三河建設事務所長 林 克行</li> <li>・愛知県三河港務所長 堀尾 朋宏</li> <li>・愛知県都市・交通局 港湾課長 石原 健司</li> <li>・愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長代理 同課担当課長（企画・技術） 朝田 堅次</li> <li>・蒲郡市建設部長 鈴木 伸尚</li> <li>・がまごおり市民まちづくりセンター代表 金子 哲三</li> <li>・蒲郡市都市計画審議会委員 早川 康子</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設部 みなとみらい課長 成瀬 貴章</li> <li>・建設部 みなとみらい課課長補佐 権田 吉宏</li> <li>・建設部 みなとみらい課主事補 深谷 実生</li> </ul> <p>【委託業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蒲郡東港パートナーズ特別共同企業体 1名</li> </ul> <p>【欠席者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蒲郡総代会蒲郡町部地区会長 細井 政雄</li> </ul>
議 題	<p>1 東港地区マスタープラン検討状況について</p> <p>2 その他</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・出席者名簿</li> <li>・委員名簿</li> <li>・蒲郡市東港地区まちづくり協議会設置要綱</li> <li>・東港地区マスタープラン検討状況について</li> </ul>
会議内容	<p>1 会長挨拶</p> <p>みなと緑地 PPP の枠組みが国でも推進されており、自身もガイドライン策定に関わっている。先日、広島で会議があり様々な港でこれを適用しようと全国各地で取り組みが進められている、蒲郡市も国からの期待が大きく愛知県も協力していることから進んでいくと思っている。</p> <p>あくまでも制度のことであり、重要なのは事業の枠組みにな</p>

	<p>るので、マスタープランがよいものであるのか、民間の参加がどれだけあるか、どのような計画かが重要である。</p> <p>この会議で議論を深めていきたい。</p> <p>2 東港地区マスタープラン検討状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局説明</li> </ul> <p>3 質疑応答</p> <p>A委員：</p> <p>港湾の整備管理をする上で、物流機能、防災機能の強化が重要であるが、賑わいづくりも重要である。</p> <p>公民連携の取り組みにより、まちプロジェクト会議や社会実験などにより活性化に向けて様々取り組まれていることに感謝申し上げる。</p> <p>三河港港湾計画の改訂作業を進めている中で、5月に三河港の将来構想を策定したところで、東港地区まちづくりビジョンの実現を明記した。今後進めていく港湾計画改訂の中でしっかり反映していきたい。</p> <p>「ぼるたる GAMAGORI」においても、みなと緑地 PPP を検討されており、国等関係機関としっかり協議して進めていきたい。</p> <p>B委員：</p> <p>まちプロジェクト会議や「がまきたいっか」の取組に関し、地域住民の方や商業関係の方と一緒に進められていることは非常にいいと感じており、是非つなげていってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹島ふ頭の先行整備の範囲を確認したい。</li> <li>・パース図を基に具体的な設計業務に入っていくのか。随分作りこんだデザインになっている中で芝生広場の作りがイベント時に障害にならないのか。</li> </ul> <p>事務局：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度。蒲郡駅から竹島ふ頭にかけての南北軸を対象に測量を実施、蒲郡港線は竹島ふ頭との関係性が強いとため予備設計、竹島ふ頭は広場等の整備に向けた工事図面などを作成する実施設計を実施する。実施設計には、建物の設計は含まれておらず、また、岸壁及びエプロン部分については設計範囲の対象外である。</li> <li>・作り込んだように見えるというご意見については、まちプロジェクト会議で、例えば、小さい島形状の芝部分の大きさについて、ロープを用いて大きさを確認し、日常使いしやすいこと、通路については、キッチンカーなどが通行できる幅であるなど、確認して基本設計を進めてきた。島形状の部分は高さが 40 センチで腰かけできる設計である。</li> </ul>
--	---

B委員：

蒲郡港線は予備設計ということであるが、デザインされているように整備するのか。

事務局：

まちプロジェクト会議を通して構想レベルで描いたものであり、事業決定しているものではない。事業中の蒲郡駅南土地地区画整理事業に含まれた道路であり、事業が完了した後に整備の必要性があるか改めて議論するものである。

C委員：

- ・ 環境への配慮について照明計画以外に考えがあるか。

第1フェーズと第2フェーズにまたがる計画図に連続性があるように感じる。第2フェーズは必ずこのようになるという確証はないのではないかと途中で、第1フェーズと第2フェーズの関係が切れていても差し支えないデザインがいいのではないか。

竹島ベイパークまで照明だけでも一気に整備したほうが竹島まで行きやすくなるのではと感じる。照明を先行整備する計画があっているのではと思う。

- ・ 竹島ふ頭で15mセットバックすることについて、どういうことなのか。横浜の山下公園を見ても海に近いところにベンチがあって滞在できることが魅力なのではないかと思うと、15mの範囲にファニチャーを置くことがあり得るのか。

事務局：

- ・ 環境配慮という点で照明は省エネルギーを考慮することで対応していきたい。その他設計でどこまで反映できるか分からないが、本市がサーキュラーエコノミーをまちづくりに取り入れており、材料の選定や先進的な技術に関し様々な企業と対話をしている。そういったものを見える形で取り入れることができるのではないかと考えている。可能であればそういったものを設計に反映していきたい。

第1フェーズと第2フェーズの連続性について、竹島ふ頭から東へ港湾緑地が続いている図にはなっているが、時期は区切りができる。この港湾緑地は3.8mの高さ設定をして連続性のあるランドスケープが形成され、そこを散策しながら回遊していただくイメージである。今後、民間事業者と対話をしながら公募へと進めていきたいと考えており、その中で、竹島ふ頭だけで一つ目の事業をするのか、東側も一体的にとらえて事業の対象とするのかも対話の中で見出していきたい。

- ・ 竹島ベイパークまで照明だけでも先行的に整備してはという意見については、確かにそういった考えもあると感じる。必ず建物ありきではなく、照明を使いながらランドスケープを整え

て、市民や訪れる方がみなとを通過して竹島まで歩いて過ごしていただけることを考えると、そういった事業手法も考えられるため、参考にさせていただく。

- ・ 岸壁から15mセットバックについては、竹島ふ頭は三方岸壁に囲まれており船舶が係留する機能がある。将来的には、旅客船が利用するふ頭を目指しており、そうなる関係者が使うエリアと市民の方の憩いの場は安全を確保する意味で分離が必要となる。船舶に係留する際には、綱取りという作業があり、危険を伴うものである。条件として竹島ふ頭はそういった機能を有する中で計画する必要がある。他事例の岸壁ではなく護岸沿いにベンチなどを設置しているケースとは異なる環境である。

C委員：

環境配慮については是非目に見える形で検討いただきたい。

岸壁から15m離れるのは海辺に来たという感覚が薄れるのではないかという意味で残念である。

秀島会長：

三方とも15m確保が必要になるのか。

事務局：

これまで容易であった岸壁の利用のしやすさが広場を整備することで環境が変わるため、エプロンの範囲で自動車が転回できるように対応しようとする十分な幅員が必要となるといったことを港湾管理者の愛知県と協議をした。

秀島会長：

水に親しむ場所は別の場所であるということで理解した。

D委員：

- ・ 南北軸に位置付けた道路の予備設計に関し、新モビリティとして自転車の活用が考えられる中で自転車は車道を通行することを考えると、自転車通行帯が設けられるのかと思われる。警察と協議しながら歩行者と自転車を分離する設計がなされると思うが、ふ頭に入ってから自転車の動線をどのように考えているのか。
- ・ 駐車場を設けるとところにモビリティの駐車場を設けて乗り換える想定をしているのか。緑地の中のモビリティは歩行者と共存で考えているのか。
- ・ ちょっとした遊具があると日常の中で滞在して楽しめると思うが遊具の設置は考えているのか。

事務局：

- ・ 蒲郡港線の車道部分を自転車は通行する想定をしている。そこから南下して竹島ふ頭に入ってから自動車動線を想定してい

る区間は自動車と自転車が共存することになる。そこから歩行者優先の区間については歩行者と自転車が共存して竹島まで移動できる想定をしている。

- ・ モビリティハブについては整備段階で整備することは考えていない。開発が進んでいった際に民間事業者によるモビリティ事業の参入があるとモビリティへのモードチェンジするハブの機能が必要と思われる位置を示している。
- ・ 竹島ふ頭内への遊具の設置は考えていない。海沿いの塩害等も考慮した維持管理面を含めて検討課題である。

D委員：

地区計画案で示されている道路1号から道路5号は自動車が通行できるのか。あるいは歩行者専用道路に自転車も通行できる想定なのか。

事務局：

現時点で想定しているのは、道路1号2号は自動車が通行する区間、道路3号は歩行者専用、道路4号5号は自動車が通行する区間である。

E委員：

令和10年度までに竹島ふ頭の整備する予定ということで、シンボルができてとてもよい。まちづくりで大切にしている視点の一つに「みなとの玄関口」と掲げてあるが、内陸側から見た港の玄関口ととれる。資料のまとめ方として海側から見た絵を入れてもらえると港の玄関口ということが分かる。

岸壁の西側と東側は人流の利用で岸壁が使われるイメージする船舶が描かれているが、正面の岸壁の使い方のイメージについて伺う。

事務局：

いただいたご意見を踏まえて海から見た風景の絵を反映していきたい。

ふ頭の利用イメージとしては、港湾情報拠点施設側の3号岸壁は旅客船、西側の1号岸壁は現状としては三谷水産高校の愛知丸、正面の2号岸壁はタグボートが利用している。港湾関係の船舶が利用することを想定しながら、イベント時には2号岸壁に帆船が寄港している現状があるので、そういったみなとの風景になるのではと考えている。

クルーズ船が小型化や高級化している中で様々な船社様と話していると竹島ふ頭の2号岸壁は魅力があるとの話をいただいている。

F委員：

竹島ふ頭はJRの主要駅から歩いて行ける場所にあり愛知県で他にはない港である。蒲郡市が整備を進めていくことに関しては

ありがたい。3号岸壁は様々な船舶が利用しており、2号岸壁は港で働くタグボート、1号岸壁は今年度新しくなった愛知丸が利用している。こういった船舶が利用している様子を市民の方に見ていただき、海運も含めて知っていただくとよいのではと考えている。

今後も様々な船舶に常時利用していただき、皆さんに見えていただける風景ができるとよい。

岸壁に近づけないといったことに関しては、船舶がいるときはそうであるが、そうでないときは入れないというわけでもない。危険なところと安全なところを区別していければよい。

G委員：

- ・ 東港地区マスタープランは、市民の方の意見募集を含めて、今後どのように取りまとめて公表するのか。
- ・ 今回の資料には、従来型の公共事業のみでは賑わい創出は難しく、民間事業者の力を期待したものとして書き込まれている。マスタープランは、市民に対する説明資料のみならず、民間事業者に対する市の思いや、出店等して欲しい場所などを説明する資料にもなるべきものと思う。そのため、事業者の自由な提案を期待していること、募集についてはみなと緑地 PPP を想定していることなどを説明するページなども設けて、全国の民間事業者がホームページを見て、出店の意向を持つことや、蒲郡市と対話したくなるような内容を整えたものにしていくのが良いと思う。

事務局：

- ・ 公表までの手順としては年度内にパブリックコメントの募集を行い、4月か5月くらいにまちづくり協議会で報告した後、策定する予定である。
- ・ 民間事業者へのメッセージという点では、今年1月に構想段階のアウトラインサウンディングを実施し19社の民間事業者様に参加いただいた。その際に、まちづくり協議会資料も公表しており、サウンディング調査実施に関しPPP関連のホームページにも掲載していただき周知を図った。今後、公募検討に向けたさらなるサウンディング調査を予定している。事業手法については、みなと緑地PPPを中心に他の手法も含めて、国・県・専門家と検討している。みなと緑地PPPは令和4年に創設された制度で、また、10件も事例がない中で、蒲郡市が港湾管理者ではない立場で制度活用するための制度づくりが必要となって議論しているところである。これらが明らかになると民間事業者に具体的な事業スキームを示すことができるため、取り組んでいるところである。

秀島会長：

マスタープランにみなと緑地PPPに関することを示すことは

	<p>難しいか。</p> <p>事務局：</p> <p>取りまとめることができる内容については示していきたいが、段階的になってしまうと考えている。</p> <p>H委員：</p> <p>我々からすると普通の見慣れた景色であるが、関係者の集まりがあった際に蒲郡駅を降りてすぐの場所にヨットがあってリゾート気分を感じられて蒲郡はいいところだといわれた。マスタープランでは市民が集まりやすいところとするのが大きなところであると理解しているが、観光として県内外から来ていただける仕掛けを考えておくとい。</p> <p>事務局：</p> <p>港湾情報拠点を象徴となるものをつくっていききたい。</p> <p>クルーズ船の事業で観光という視点で取り組んでいる。観光の志向が変化している中で従来とは異なり、体験型やそこに佇む、過ごす、などといったことが観光として訪れたいくなるように変化しつつある。そういった面で観光色は強くないが、コンセプトとして居心地の良い空間をつくり、やがては観光としても求められる場所になっていくのではと考えている。</p> <p>I 委員：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海は身近なものであり特別見に行くものではない、ここへどうやって人を呼び込めばいいのか。最近は秋と春がなく夏から突然冬になる。夏の暑さ、日差しをどうやって避けようか、冬は風が強いので行かない。先日の <b>GAMAHALLOWEEN</b> で子供たちがカボチャを育てて道に飾った。子供たちが参加すると親も見に行くし、子供はこの場所に愛着が沸くため、そういった活動をやってもらいたい。子ども食堂でも挨拶運動で駅まで子供たちが行って挨拶をするそういった活動をゆくゆくは港の場所が開けてきたらできるといい。そんな種まきをしている。</li> <li>・ この場所に期待していることは安心安全に歩くことができる場所が増えること。現在、竹島まで広い歩道を通って夕方散歩している人は多い。できれば車のおりが少ない、いいところで照明がついて歩きやすくなれば高齢者も散歩しやすい。</li> <li>・ こういった企画をする際に人口が減っている中でどうやって子育て世代を呼び込むのか。税金にもつながる。サイクリングロードがあるといいと思う中で、計画に歩行者と自転車が共存して竹島まで行けるとのことで、子供が親とサイクリングして遊べる場所になるといい。ある水族館では、広場にミストがあり、キッチンカーが入っている。そういった子育て世代がここにきて遊べる場所になるとよい。</li> <li>・ ラリー三河湾はどうなるのか心配で気になる。</li> </ul>
--	---

事務局：

- ・ GAMAHALLOWEEN のイベントテーマとしては、子育て世代に来ていただくこと目的としておりそれが実現された。主催者の方は初めてイベントを実施したがとても努力されていた。そういった活動を港で積極的に受け入れをしていくことで、蒲郡市の様々な多世代の方に港に訪れていただいて、そこで笑顔が見られると思う。ハード整備だけではなくソフトの取組として受け入れをするなど公民連携で場所をつくっていききたい。
- ・ 安心安全できる場所をつくってほしいということについては、資料のイメージ図にもあるとおり安心して夜も港で過ごしていただける場所をつくっていききたい。期待に応えていききたい。
- ・ サイクリングロードとしての利用は、土日など人が多く訪れる日にちは難しいが平日の穏やかな時間については、親子でサイクリングを楽しんでいただけるのではと考えている。
- ・ ミストについては計画で想定しており、社会実験の「みなとまち village」を実施したとても暑い3か月間にちょっとした涼をとれる水景施設を用意して必要性を感じたため設計に反映していききたいと考えている。計画では、フラット噴水や水遊び場、日差しをしのぐ屋根空間で楽しんでいただくものを実現できたらと考えている。
- ・ ラリーについては、ラリー競技も実施ができる想定で計画を検討している。平時は歩行者優先としながら協議の際は自動車が走れる想定をしているため、ラリーを楽しんでいただけると思う。

J 委員：

障がい者ヨットの関係で30年前に竹島ふ頭でアメリカズカップの基地に伺った際は、港としての機能を感じたがその後、「みなとオアシス」ができて市民にとって身近な港になっていった。障がい者対応の施設を港湾の予算で設置され国からの支援もあり、港に福祉をつくる展開について蒲郡から港福連携というのを当時の港湾整備局長にお伝えさせてもらった。

社会実験のアンケート結果に利用者と出店者からの回答があった中で、残念ながらトレーラーハウスで実施されたことで、車いすで利用することができなかった。他の障がい者の方は車いすを運んでもらって利用したという方もいた。整備計画の中で段差などについては検討いただきたい。

「いつもの港、いつもの特別」はよい。海とまちの接続点として海の関係者とまちの関係者が交わる拠点という発想を持っていただきたい。交流することによって次の何かが生まれるのが蒲郡の港だということを考えていただきたい。愛知丸や国土交通省の船を見学させてもらえるのはこの竹島ふ頭である。そういった機能も考えていただきたい。



既存の大きなイベントがある中でテントの搬入搬出が課題である。また、周辺に公共施設、商業施設、会議所があり雨が降った際に避難ができる場所で、バックヤードとして大規模な企画をする上で重要な機能である。近隣の関係者も含めた竹島ふ頭の機能が重要である。

多くの船が係留して港から買い物に行けるすごく近いまちという話を聞く。今回の社会実験を憩いの場として利用したという話を聞いた。横浜や神戸のように船があって港を感じられるだけではなく、乗組員さんたちも机を囲んで蒲郡の海を感じられるような、文化の交流についても考えていただきたい。物販などの商業だけで人の流れをつくるのは厳しく限られていると感じる。海の関係者も含めてヒアリングをしていただきたい。

事務局：

社会実験でバリアフリーの面では不十分なところはあったが、整備に関してはユニバーサルの考え方に配慮して対応する。

様々なものがクリエイトされるのは海でも交わる場面で発生すると思われるので、ご意見は重要であると考えている。

旅客船誘致に取り組んでいる中で、海からどのように人を取り込み出ていくのかという視点では、船が来る港と来ない港は印象が全く違うと感じている。定期ではないにしても旅客船が来る港をつくると、地域の人、港と交わるということが起こっていくと考えている。混ざり合う場所をつくることは大事だと考えている。

J 委員：

蒲郡でバリアフリーのアセスメントをしている。施設の設計段階から意見を出す中で、伝えきれない部分もあるため、商業関係の方や船に関わる方が多文化共生も含めて共通体験をしながら作っていくことが重要である。

様々な企画をする中で一般の公園などより制限がかかる場所であることを知ったうえで上手に使ってもらうことを考えていただきたい。

秀島会長：

今後もワークショップなどの対話の場で織り込んでいただければと思う。

K 委員：

市長が就任した際に蒲郡駅から竹島までの間を歩いて過ごせるような心地よい場所にしていきたい思いで検討が始まった。過去の計画が実現できず、よい場所であるが使えておらずもったいないということを何度も言ってきた。皆さんの協力をいただいてここまで来た。これまでの計画では公共が考えてきたが、今回は、市民の方がどのように使いたいかを考えてきた。また、今後も民間事業者と対話をしながら検討していきたい、社会実験の「みな

	<p>とまち <b>village</b>」を利用した際に感じたのが、海を見ながらお酒を飲める場所は蒲郡にあるようでなかなかないため、市民の方が気軽に行ける場所になるのではと思っており、そういった心地よい場所を、まずは竹島ふ頭から展開して徐々に広げていきたい。今後ともご協力いただくようお願いしたい。</p> <p>E 委員：</p> <p>愛知県で 1 番目に「みなとオアシス」に登録された蒲郡である。竹島ふ頭の整備ができてタイミングがあればオープン記念として「sea 級グルメ」の全国大会を開催していただきたい。</p> <p>秀島会長：</p> <p>本日、様々な意見が出た、本協議会からの助言として事務局に預ける。</p> <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共空間の活用促進について報告</li> <li>・ 民間活力導入に向けたサウンディング調査の実施について説明</li> </ul>
--	--